

「今人生、真っ盛り」

～杜の都通信～



31期・陸上・山口和則

仙台で退官、そのまま大好きな仙台をエンジョイしています。

● まずは思い出を整理

第2の人生を迎えるにあたって、自衛隊での地位や常識を一度リセットするため、自衛官人生を俯瞰し、客観視できるように、これまで捨てられなかった部隊章、名札などを時系列に整理し、額装しました。

● 仙台ライフを満喫

仙台は暑さ寒さもほどほどで、整備された自然が街中にあふれています。メジャーショップはひと通りあり、国分町“ブンチョウ”は、歌舞伎町のミニチュア版です。そして、観光地を除き、混雑や待ち行列がほぼないことも魅力的。

四季折々のイベントもあります。春はスズメ踊りで街があふれる青葉まつり、夏は七夕、秋はジャズフェス、冬は定禅寺通りのイルミネーション。街なかを走る定禅寺通りのけやき並木は、春夏秋冬異なる表情を見せてくれます。この通りに挟まれたグリーンベルトでおにぎりをいただくのが至福のランチタイムです。

● 東北の各地の豊かな風情を堪能

東北各地には風情のある場所と温かい人柄があふれています。目を見張るような渓谷の紅葉、心まで温まる温泉、中尊寺などの文化遺産などを心行くまで満喫できます。その土地土地には優しい心をもった人たちがいます。必ずしも多弁ではありませんが、打ち解けて話してみると、みんな心の中に色々なものを抱えています。家族のことだったり、仕事のことだったり、震災時の苦労だったり…。息苦しい世の中になってきましたが、東北の自然と人情は疲れた心を癒してくれます。

● 適度な距離感でTOKYOを楽しむ

とは言え、東京の空気にも時には触れたくなります。新幹線で1時間半、仙台は首都東京と快適な位置関係にあり、その意味でも魅力的です。

同窓会、コンサート、（当選すれば）自衛隊音楽祭りなどのイベントなど…都合さえあれば、しっかり日帰りで楽しむことができます。

たまに東京に出ると、その混雑とあわただしさには参りますが、やはり情報のエネルギーにあふれていて、まさに充電される気がします。昔通った懐かしいお店にも行けますし、お上りさんでも土地の人でもない、不思議なワクワク感でTOKYOを楽しめます。



「自衛隊人生」を額装



定禅寺通りのけやき並木

● 自衛隊へのエール

生命保険会社の顧問という職業柄、東北各地の駐屯地を日々巡ります。

現在進行形の自衛隊の姿を、第三者の立場で見つめることができます。特に、新入隊員の団体保険説明会や入隊式に立ち会うと、志をもった若者のエネルギーを肌で感じ、身の引き締まる思いです。これも自衛隊とつながりのある仕事に巡り合うことができた特権だと思っています。

近くに松島基地もあり、たまに仕事で行くと思いがけず、青空にブルーインパルスが描くシュプールを拝める幸運もあります。

時代のスピードが速く、部隊の改編、制度改革、時代のニーズに応じた施策などに驚かされることもありますが、その中で汗を流す人には変わることのないひたむきさを感じます。

団体保険というアングルから寄り添いながら、進化を続ける自衛隊の姿を見つめながら静かにエールを送っていきたいと思っています。

● 時間を味方に趣味に没頭

急な呼集というストレスから解放され、楽しいことに没頭できるのが何よりの喜びです。

まずは、コンサート。現役時代は、半年前にチケットをとり、当日の開演直前までドキドキしながら、ツアー参戦していました。制服を脱いでからは、ビクビクすることもなく当日を迎え、終わった後も存分に余韻に浸ることができます。

読書でも有り余る時間が味方してくれます。これまで細切れに様々な本を読んできましたが、今は、やや腰を据えて洋の東西の大作、名作をじっくり味わうことができます。

趣味の分野では、ミニチュア作りを楽しんでいます。退官後、或る事がきっかけで、プレゼント用のミニチュアを作り、意外にそこそこの出来映えだったことに気を良くし、以後、たくさんのミニチュアやジオラマを作りました。工作を始めると時間を忘れます。これほど自分がモノ作りが好きだったのかと驚いています。



自作のミニチュア

● これからも日々勉強！

定年後の仕事で大切だと感じるのは、自分の特性を生かせること、通勤の便、家族との時間の確保、そして”適度なやりがい”です。

城山三郎の「毎日が日曜日」で、全く何も仕事をしない悠々自適の生活よりも、適度な負荷がある仕事をして、自分の居場所とやりがいを持っていた方が幸せだということが語られていますが、まさにその通りだと感じています。

営業に直接関わるわけでもなく、ノルマがあるわけでもない。でも、駐屯地ごとに職員がいて、自衛隊OBならではの部隊とのつなぎや知見でアドバイスを提供する。その中で会話を楽しむ。全体の成績が上がれば、こちらの気分も上がります。

どんな仕事も、究極は人間関係に起因する問題が焦点であり、懸案を取り巻く組織や制度を確認しながら、その枠組みの中で、できる限り全体のパフォーマンスをあげるように現実的な努力をすることに変わりはありません。これからも勉強の連続です。